

各産業が結束し次の時代へつなぐ

町産業振興協議会（会長、鈴木重男町長）主催の令和4年度葛巻町産業振興大会は2月9日、グリーンテージで開催され、農林業や商工業の関係者約100人が出席しました。鈴木町長は「先人も知恵を出し合

いながら困難を乗り越えてきました。我々も結束し、歩みを止めず次の時代につなげていきましょう」とあいさつしました。



①表彰受賞者の皆さん②あいさつを述べる鈴木町長③葛巻町長表彰を受け取る折元大樹さん④新規就業者の皆さん⑤記念講演で熱弁を振るう岡田学長

紹介されました。昨年4月に辰柳牧場に就業した漆田雪乃さん（五日市）は「酪農の知識なく働き始めましたが、学びながら頑張っています」と抱負を述べ、会場から激励の拍手が送られました。

大会に引き続き、富士大学の岡田秀二学長が「カーボンニュートラル時代の山村創生論」と題した記念講演を行いました。岡田学長は「山村振興には、人だけではなく土地や空間、技術や文化も含めたコミュニティが大切」と力を込めて語り、参加者は真剣に聞き入っていました。

表彰受賞者の皆さん（敬称略）

■葛巻町長表彰（産業経済優秀賞）

松浦陽治（江刈馬淵）
（株）GRFホルスタインズ（折元大樹代表、遠矢場）
漆真下恵（大沢）

■葛巻町産業振興協議会長表彰

《優良活動特別表彰》
川村竜太（栗山）

《優良農家等表彰》

▶優良生乳生産者
鹿渡幸作（野中）、落宰 勝（小屋瀬）
高宮幸恵（江刈）、岩泉 篤（寺田）

▶平均最高乳価生産者
松浦陽治（江刈馬淵）

▶乳量増加生産者
澤口昭紀（江刈馬淵）、村上康孝（大沢）
（株）GRFホルスタインズ（折元大樹代表、遠矢場）

▶和牛子牛最高販売額生産者
江田昭一（元木）、八木春雄（吉ヶ沢）

▶山ぶどう栽培優良生産者
五十地幸子（田代）

▶葉たばこ栽培優良生産者
里澤 孝（星野）、鹿糠博身（星野）

《野菜共進会入賞者表彰（金賞受賞者）

▶ほうれんそう
小屋畑孝喜（四日市）

▶はくさい
川原タカ（名前端）

▶キャベツ
鹿糖ミドリ（橋場）

▶だいこん
小屋畑真理子（四日市）

《花き共進会入賞者表彰（金賞受賞者）

▶りんどう
亀山秀長（星野）

▶トルコギキョウ
亀山秀長（星野）

《造林・育林・間伐共進会入賞者表彰（最優秀賞受賞者）

▶造林の部
野中二夫（四日市）

▶間伐1の部
長峯一雄（五日市）

《商工部門表彰（優良商工業者）

▶くずまき商品券の年間取扱高(上位)
（株）とりい、（株）近誠、（有）山伸水道工業所

▶くずまき商品券の年間取扱高伸び率(上位)
（有）山伸水道工業所、（有）葛巻自動車整備工場
（株）小山田商店葛巻給油所

▶ニコちゃんポイントの年間ポイント発行高(上位)
スーパーみうら、（株）近誠、（一社）葛巻町畜産開発公社

▶ニコちゃんポイントの年間ポイント発行高伸び率(上位)
久多良建設、（株）岩手くずまきワイン、チバクリーニング

▶快適な住まいづくり応援事業実績（上位）
樋口建築、久多良建設、福井塗装、（有）上遠野工務店

《各種紹介》

▶新規就業者
《就農》 中六角和輝（江刈）、上野裕希（江刈馬淵）
辰柳慎一（田子）

《就業》 ミドリアパレル中央（株） 小林優一（江刈）
辰柳牧場 漆田雪乃（五日市）

▶新規創業者
竹花企画（介護タクシー業） 竹花 守（田代）

功績たたえ栄えある受賞

町勢功労表彰・善行表彰

令和4年度の町勢功労表彰と善行表彰の表彰式は1月30日、グリーンテージで行われ、町勢功労表彰は保健福祉の分野で町の発展に貢献された和野喜一さん（浦子内）が、善行表彰は町勢発展のために多額の寄付をされた川村久史さん（盛岡市）がそれぞれ受賞されました。

鈴木重男町長は「多大なる功績と貢献に心より感謝申し上げます。崇高な理念のもとにご活躍されたお二人に、今後も高い見地から助言を賜りたい」とあいさつしました。また受賞者を代表し、和野さんが「栄えある表彰を受賞できたのは関係者の皆さまと町民のご支援の賜物です。町のさらなる進展のため引き続き精進します」と謝辞を述べました。

町勢功労表彰（保健福祉）



和野喜一さん（84歳・浦子内）

平成13年から国民健康保険運営協議会の委員や会長のほか、社会福祉法人誠心会理事長など多くの要職を歴任され、町の保健福祉の向上に多大な貢献をされました。

善行表彰



川村久史さん（78歳・盛岡市）

町の地域振興の重要性を深く認識され、令和2年度、3年度に引き続き、ふるさと納税として多額の金員を寄付いただきました。

広域8市町がごみの共同処理へ 盛岡広域環境組合を設立



設立式に出席した盛岡広域8市町の首長の皆さん（左から2人目が鈴木町長）

盛岡広域の8市町（盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町）は2月1日、ごみの共同処理などを目的に、地方自治法に基づく一部事務組合「盛岡広域環境組合（管理者、谷藤裕明盛岡市長）」を設立しました。

自治体のごみ焼却施設の集約化は、ダイオキシンなどの有害物質の発生を抑制するための国の指針に基づいて進められており、県では県内6ブロックでごみの広域処理を進める方針としています。本町を含む盛岡広域8市町は「県央ブロック」として施設を集約することになり、平成23年から協議会を組織して検討を進めてきました。

町の施設の延命化 3Rをさらに推進

組合では今後、令和4年度の稼働を目標に1日約500tのごみを焼却する処理施設を盛岡市内に整備するほか、施設から発生する熱エネルギーの活用について検討を進めます。また、資源ごみなどの処理、最終処分場の設置などについても8市町で検討を進めます。

広域のごみ処理施設が稼働するまでの今後約10年間は、引き続き各市町でごみの処理を続け、町の清掃センターは老朽化が進んでおり、延命化が必要となります。町は施設の修繕など適切な維持管理に努めるとともに、設備にかかる負荷を低減するため今後も3R（スリーアール）を推進します。リデュース（ごみの量を減らす）、リユース（ものを繰り返し使う）、リサイクル（資源として再び使う）に、引き続き地域の皆様のご協力をお願いいたします。